



淋敷座之慰
全

特別
14
696
40



696
40

自寬永
至延寶

之利小

自延寶四年至文化十二年及
百四十年古寫本可愛現今茲
乙亥三月上浣春高子補
表裝所藏也

或亭主人



和書院
玉泉文庫



此ささしき三馬の花あり友人山口柳塙
書字ささしき蜀山翁の藏とあり今ささしき豊原の
文庫よりそれと化してついでに字をせしが
原おささしき三轉ささしき語もあらん

と保登己十月念二夜平 柳亭

種彦

忠定

柳正實丙辰八月上旬の書成よむと柳の
淋髪終よむとささしきの字紙とささしき。而必ありささしき
中。我ささしき。吾樂不謂法。法。以。我。十
冊。及。の。ささしき。不。世。ささしき。ささしき。乃。我。
あ。い。出。ささしき。玉。ささしき。あり。世。の。人。の。心。一。お。ささしき。
さ。あ。中。年。の。歳。友。の。終。代。ささしき。古。文。を。捨。る。に。
ささしき。ささしき。ひ。我。ささしき。ささしき。其。心。ささしき。古。文。紙。
撰。る。ささしき。ひ。さ。あ。我。ささしき。集。る。淋。髪。終。の。終。ささしき。若。き。に。
小。ささしき。の。紙。ひ。さ。あ。さ。若。き。に。ささしき。ささしき。志。は。是。
是。と。ささしき。或。あり。又。さ。終。る。ささしき。あ。さ。人。

何事也。此...
 又去加...
 且夫人...
 未見...
 或...
 音...
 一册...

于收世寶四中秋上旬日

淋交産磨

全目録

真永初
三
角

六十
傳

十
傳

三十
傳

延宝
初

- 一 本朝王代歌謡
- 一 皇玉王代歌謡
- 一 若香若名歌謡
- 一 鉄輪道行
- 一 小舞
- 一 磐石行
- 一 弓場之根行
- 一 ちそ乃行
- 一 義氏乃行
- 一 笛乃行

二
口傳
實文初
四角

一 口^{十一} 雲子乃ち也

一 △^{十二} 尚世初ちくも

一 △^{十三} 河内をよ

一 △^{十四} 吉原をよむる

一 ○^{十五} ちり奈文 十六ウ

一 △^{十六} 吉原をよむる 十七ウ

一 △^{十七} 望文死文 十八ウ

一 口^{十八} 江之島んさん 十九ウ

一 口^{十九} 大島んさん 二十ウ

一 口^廿 吉原をよむる 廿一ウ

一 口^{廿一} 望文んさん 廿二ウ

十
口傳

三
口傳

一 口^{廿二} 吉原をよむる

一 口^{廿三} 吉原をよむる

一 口^{廿四} 昔大島んさん

一 口^{廿五} 中古大島んさん

一 口^{廿六} 西園礼文 三十三

一 口^{廿七} 望文礼文 三十三

一 △^{廿八} 望文んさん

一 口^{廿九} 秋の夜をよむる

一 口^{三十} 吉原をよむる

一 口^{三十一} 望文んさん

一 口^{三十二} 望文んさん

一 三十三 きのり〜ま〜るあや
 一 三十四 髪物〜るあや
 一 三十五 湯〜るあや
 一 三十六 桶〜るあや
 一 三十七 医者〜るあや
 一 三十八 乃〜るあや
 一 三十九 西行〜るあや
 一 四十 北窓〜種〜るあや
 一 四十一 八嶋〜るあや
 一 四十二 和江〜るあや
 一 四十三 吳流〜るあや

一 四十 きのり〜るあや
 一 四十一 和江〜るあや
 一 四十二 琴の音あや
 一 四十三 鶴の音あや
 一 四十四 壺の音あや
 一 四十五 ら〜るあや
 一 四十六 昔小六あし
 一 四十七 昔〜るあや
 一 四十八 櫻川のあし
 一 四十九 ち〜るあや
 一 五十 下〜の中山長あや

三
口
傳

廿
一
口
傳

十
九
口
傳

百
口
傳

三
口
傳

三
十
口
傳

△^{五十四}あけしあ

△^{五十三}あきあのき

□^{五十七}あやあ

□^{五十八}あけあ

□^{五十九}あけあ

□^{六十}あけあ

□^{六十一}あけあ

□^{六十二}あけあ

□^{六十三}あけあ

□^{六十四}あけあ

□^{六十五}あけあ

五
口
傳

□^{六十六}あけあ

□^{六十七}あけあ

□^{六十八}あけあ

□^{六十九}あけあ

□^{七十}あけあ

△月録年

△割後口傳

△今昔業二五七十

淋敷座之慰

△次第不同

本朝五代記之謠

一夫仁王乃神代神武綏諸安寧懿德孝
 照孝安孝靈孝元開化崇神代十代の帝
 皇仁景行成勢仲哀神功應神仁德履中
 五心亢恭二十代 安康雄畧清寧顯宗仁賢
 武烈繼躰安閑宣化欽明三十代 敏達用明
 崇峻推古舒明白皇極孝德齊明天智天武
 四代 持統文武元武元心聖武孝謙廢帝
 稱德光仁桓武五十代 平城嵯峨淳和仁明

文德清和陽成光孝宇多醍醐六代朱雀
村上左京四陽花山一條三條後一條後朱雀
院後冷泉院七十一代後三條白川堀河鳥羽
崇徳近衛後白河二条三条高倉八十八代
安徳後鳥羽土御門順徳後堀河四条後儀成
後深草龜山後宇多九十一代伏見後伏見
後二条花園後醍醐光嚴後醍醐光明
宗光後光嚴百代後四隅後小松祢光
後花園後土御門後柏原後奈良の院正
親早後陽成爲今ととも百十代四條後浪
野ととも了長とともあやとともかふ今上皇帝

乃此代り久しうなり

吳國五代謡

一 伏犧神農くく皇帝はは三かくしとて此
はさきとともりや白皇瑞玉かかあんとともさやうく
あんとともさ帯し其ともさ高玉はをいあめさ
其乃禁つともさ十七代君のなるを死際より
孫を成せらあともさいん乃ははあやとともさ
七代の時ふ討之乃悪ふより武王のともさおひ
りり是右ふか智恵も也國の世ともさ二十七代
子こえん一 年は八百六十年也ろみまを初め
武王成王かかともさ事ともさ福玉はを

是と重代と云ふはし、此まのりうしう故
に成りしし氣志のちしし、故ふさひぬた
るも出玉乃西まけいしし世成あこしちし
かししあうあうり自其まよ考ふるあうけいし
代り孔子おこしを治む文のちしし
四代も申しし也因りせおけしし老人
の西来十二編候と数四り七雄の世あり
し成りんはるはるしし成り人の世し
二代器九年の成りし始り乃西由一威
陽宮を破見ししぬしし志也成りしし
志んも成りしし成りし後項おしし能の成り

ありし項おしし成りし海の世しし下
くし二百年せしし韓信ししし成り良
成りししし成りし成りし成りし成りし
のしししし成りし成りし成りし成りし
しししし成りし成りし成りし成りし
のしししし成りし成りし成りし成りし
二百奈来しし成りし成りし成りし成りし
乃治りしし成りし成りし成りし成りし
二代異し四代成りし成りし成りし成りし
成りし成りし成りし成りし成りし成りし
ししし成りし成りし成りし成りし成りし

三世よりハ二十世より乃世より十六代は人の
世より十八世より三十三代は

岩香の籍

一夫六十一種の岩香をわきまにしりたれし
せしより三吉屋のちんあわく中川をちり
花傳はつたかんとあししりてりあまの
りやとんせんや鶴橋斑玉梅楊を紀
あめ梅種を傳みはははしり月新田あまの
香斜月あめあまのりけりてりあまの
花のあまの梅の香岩月かじんり蜀玉花
花散りてりあまの花をりてり酒のあま

十五夜甲子の夕時雨に花を母雲井くはる
初秋かんとんあまの早梅を夜七人席見
志乃のあまのあまのあまの馬

張福及行籍

一けあまの家より三あまあまのあまのあまの
二あまのあまのあまのあまのあまのあまの
くのあまのあまのあまのあまのあまのあまの
只あまのあまのあまのあまのあまのあまの
あまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの
はあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの
けあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの

まことんりよひまきまふたの葉〜よふと
乳乃かきぬはるひよ三川むみきつ沈いけ
るかひるまき浮身の消き初まや葉海と帝
原野まきの路もろく月夜をき夜々鶴三川
杉とるまきし初もぬ〜まき〜あひのまき
りふふり〜

小辞

一 松乃枝よりむらゝ鶴のすし川とるまきまき
まき乳岩尾の月よあきぬのまき代も
限ちあよけひひ君くぬえらまきや〜んと
沈ま〜唐子いあ〜まき〜

六 初祀乃行

一 初七を後るひよよ〜ぬ縁衣と初〜とる神
ぬれ〜千〜びり〜ゆ浪の沈ん浮きぬぬ
まもあ〜初〜まきやるた志〜せ〜ん〜
とたふい〜ま〜び〜浮身のま〜ま〜
をこれおま〜の〜は〜浮きぬ〜
沈浮〜ま〜初〜ま〜らん〜山〜祈〜
ふ〜初〜あ〜ひ〜の〜山〜宿〜や〜園〜の〜院〜と〜
ま〜ま〜う〜ま〜の〜何〜の〜初〜庭〜も〜海〜ん〜
この〜ま〜し〜ら〜初〜ま〜ま〜
乃中初のう〜ま〜し〜あ〜あ〜

りては... 伏見
こころよおつ... 波立川の...
むきと風よ...
いそす... 本平...
渡の川... 山...
あう... 月...
そ... 山...
物... 山...

静... 山...
移... 山...
煙... 山...
そ... 山...
表... 山...
と... 山...
何... 山...
ま... 山...
あ... 山...
あ... 山...

伊のりひのあつ柿又西栗回さるまき山邊録れ
し加尾百州むらさき(ま)のまきまゆ(ま)のまき
し(ま)のまき(ま)のまき(ま)のまき

十三 伊のりひのあつ柿

一 ころろのあまき(ま)のまき(ま)のまき(ま)のまき
おほし(ま)のまき(ま)のまき(ま)のまき(ま)のまき
おほし(ま)のまき(ま)のまき(ま)のまき(ま)のまき
おほし(ま)のまき(ま)のまき(ま)のまき(ま)のまき
おほし(ま)のまき(ま)のまき(ま)のまき(ま)のまき
おほし(ま)のまき(ま)のまき(ま)のまき(ま)のまき
おほし(ま)のまき(ま)のまき(ま)のまき(ま)のまき
おほし(ま)のまき(ま)のまき(ま)のまき(ま)のまき
おほし(ま)のまき(ま)のまき(ま)のまき(ま)のまき
おほし(ま)のまき(ま)のまき(ま)のまき(ま)のまき

4

おほし(ま)のまき(ま)のまき(ま)のまき(ま)のまき
おほし(ま)のまき(ま)のまき(ま)のまき(ま)のまき
おほし(ま)のまき(ま)のまき(ま)のまき(ま)のまき
おほし(ま)のまき(ま)のまき(ま)のまき(ま)のまき
おほし(ま)のまき(ま)のまき(ま)のまき(ま)のまき
おほし(ま)のまき(ま)のまき(ま)のまき(ま)のまき
おほし(ま)のまき(ま)のまき(ま)のまき(ま)のまき
おほし(ま)のまき(ま)のまき(ま)のまき(ま)のまき
おほし(ま)のまき(ま)のまき(ま)のまき(ま)のまき
おほし(ま)のまき(ま)のまき(ま)のまき(ま)のまき

十四 伊のりひのあつ柿

一 ころろのあまき(ま)のまき(ま)のまき(ま)のまき
おほし(ま)のまき(ま)のまき(ま)のまき(ま)のまき
おほし(ま)のまき(ま)のまき(ま)のまき(ま)のまき
おほし(ま)のまき(ま)のまき(ま)のまき(ま)のまき
おほし(ま)のまき(ま)のまき(ま)のまき(ま)のまき
おほし(ま)のまき(ま)のまき(ま)のまき(ま)のまき
おほし(ま)のまき(ま)のまき(ま)のまき(ま)のまき
おほし(ま)のまき(ま)のまき(ま)のまき(ま)のまき
おほし(ま)のまき(ま)のまき(ま)のまき(ま)のまき
おほし(ま)のまき(ま)のまき(ま)のまき(ま)のまき

伊のりひのあつ柿

夜半の
新吉原
夜半の
清浄堂
湯守の
湯守の
湯守の

おれはとて物着のまゝ一歩一歩と
うらもこもるやおれは命を
かたはらへて川に身をまかせ
し中のうらも清浄堂の
よもやまを流す雪井の
あぐさよりうらも清浄堂
おれはとて物着のまゝ一歩一歩と
うらもこもるやおれは命を
かたはらへて川に身をまかせ
し中のうらも清浄堂の
よもやまを流す雪井の
あぐさよりうらも清浄堂

教正

おれはとて
おれはとて
おれはとて

おれはとて物着のまゝ一歩一歩と
うらもこもるやおれは命を
かたはらへて川に身をまかせ
し中のうらも清浄堂の
よもやまを流す雪井の
あぐさよりうらも清浄堂
おれはとて物着のまゝ一歩一歩と
うらもこもるやおれは命を
かたはらへて川に身をまかせ
し中のうらも清浄堂の
よもやまを流す雪井の
あぐさよりうらも清浄堂

そふこひひふ

十五 世にむかひ

柳... 京... 古... 車長... 代... 地...

三浦芳春 又潤作

端の橋の 謀り

そふわが... のぞき... ぬり... 新... け... び... ち...

海是效白

野良家文

一 杯をらんぞやうわらう。生んぞ野良家の
 岩のくわあまを山。山川の流る。海井
 山云節。そまふあまのこもあえ。今も右の丘の
 ざん。一わらう。こもあまのこもあえ。今も
 都の白きまを。あまのこもあえ。今も
 此まの。腕よ。花井。園。池。後井。つなも。有る
 腕よ。つなも。あまのこもあえ。今も
 出る。まあや。あまのこもあえ。今も
 神を。まあや。あまのこもあえ。今も

らん。まあや。あまのこもあえ。今も
 ひま。まあや。あまのこもあえ。今も
 清く。まあや。あまのこもあえ。今も
 好候。まあや。あまのこもあえ。今も
 ち。まあや。あまのこもあえ。今も
 まあや。あまのこもあえ。今も
 海。まあや。あまのこもあえ。今も
 海。まあや。あまのこもあえ。今も

昔の川よりのこゝろに

さきかたはるき

さきかたはるき

さきかたはるき

さきかたはるき

さきかたはるき

さきかたはるき

さきかたはるき

さきかたはるき

さきかたはるき

さきかたはるき

後山井

さきかたはるき

二に小せぬぬを

三たはるき

四せの申ち

五伊ち

六さかたはるき

七何事

八はるき

九さかたはるき

十さかたはるき

十一さかたはるき

十二さかたはるき

愚か家よ

一に傍と

二に傍と

三に傍と

四に傍と

五に傍と

六に傍と

七に傍と

八に傍と

九に傍と

十に傍と

一 番々 紀伊玉郡智

一 姉こらゝし 女岩の川流のみなぎりのあらり
おゆめよ 乙女 遊ばせ

二 番々 紀伊のまきみい寺

一 ちりこゝん ねんたる 一 ちりこゝん ねんたる
和了ちりこゝん ねんたる

三 番々 紀伊 小川寺

一 又女めく子と遊ばせ 一 川に 佛の御書
和也 一 ねんたる

四 番々 和泉のまきみい寺

一 小山ぢやひこ ねんたる 一 小山ぢやひこ ねんたる

和也 一 ねんたる

五 番々 紀伊 玉郡 智

一 ちりこゝん ねんたる 一 ちりこゝん ねんたる
ひまのえんたる

六 番々 大和乃 浮坂

一 岩山 ねんたる 一 岩山 ねんたる
ねんたる ねんたる

七 番々 和州 一 ねんたる

一 けさみ ねんたる 一 けさみ ねんたる
和州のえんたる
八 番々 和州 一 ねんたる

一 敬愛のこゝろをこころの御座りては
此川

九番の山にありては

一 五右衛門の山にありては

十番の山にありては

一 五右衛門の山にありては

十一番の山にありては

一 道徳の山にありては

十二番の山にありては

一 山にありては

十三番の山にありては

一 山にありては

十四番の山にありては

一 山にありては

十五番の山にありては

一 山にありては

此川

九番の山にありては

山にありては

十番の山にありては

山にありては

十一番の山にありては

山にありては

十二番の山にありては

山にありては

十三番の山にありては

山にありては

十四番の山にありては

山にありては

十五番の山にありては

山にありては

何と云ふらん

十才女... 十才女...

一 松丸... 松丸...

~~~~~

十七才女... 十七才女...

一 松の... 松の...

~~~~~

十才女... 十才女...

一 十才女... 十才女...

~~~~~

十九才女... 十九才女...

一 花... 花...

~~~~~

廿才女... 廿才女...

一 廿才女... 廿才女...

~~~~~

廿才女... 廿才女...

一 廿才女... 廿才女...

~~~~~

廿才女... 廿才女...

一 廿才女... 廿才女...

~~~~~

廿才女... 廿才女...



廿二日及物列二つとす

一 松とくしとくしは平よ新谷とくしとす 佛と松と

ひまやせ やの

廿三日及物列 中山とす

一 松とくしとくしは平よ新谷とくしとす 佛と松と

後の母のきとす

廿四日及物列 清とす

一 松とくしとくしは平よ新谷とくしとす 佛と松と

ひまやせ やの

廿五日及物列 松とす

一 松とくしとくしは平よ新谷とくしとす 佛と松と

廿六日及物列 松とす

廿七日及物列 松とす

一 松とくしとくしは平よ新谷とくしとす 佛と松と

廿八日及物列 松とす

廿九日及物列 松とす

一 松とくしとくしは平よ新谷とくしとす 佛と松と

三十日及物列 松とす

三十一日及物列 松とす

一 松とくしとくしは平よ新谷とくしとす 佛と松と

三十二日及物列 松とす

三十三日及物列 松とす

一月廿日 日も波のまは流のり 舟きりり 〇〇  
きりり 波のまは流のり

廿五日 道石をめぐり

一 居ちりり 舟がきりり 〇〇

河の舟のきりり 〇〇

廿五日 道石をめぐり

一 舟がきりり 舟がきりり 〇〇

〇〇 〇〇 〇〇

廿五日 〇〇 〇〇 〇〇

一 廿五日 〇〇 〇〇 〇〇

〇〇 〇〇 〇〇

一 廿五日 〇〇 〇〇 〇〇

〇〇 〇〇 〇〇

一 けさきりり 〇〇 〇〇

〇〇 〇〇 〇〇

廿五日 〇〇 〇〇

一 廿五日 〇〇 〇〇

一 舟がきりり 〇〇 〇〇

〇〇 〇〇 〇〇

廿五日 〇〇 〇〇

一 〇〇 〇〇 〇〇

〇〇 〇〇 〇〇

二葉あきしうらみ子

一 まよひし今たまたまきりひまのゆりともな

うたはれたしうをすぬ

四葉あきしうらみ子

一 うをすぬしうあしう津をゆきしお井のけい

うらみ子

五葉あきしうらみ子

一 かなをのこきききみ<sup>け</sup>た<sup>け</sup>し<sup>け</sup>れ<sup>け</sup>ぬ<sup>け</sup>よ<sup>け</sup>か<sup>け</sup>ぬ<sup>け</sup>

六葉あきしうらみ子

七葉あきしうらみ子

一 しやうりてうらみ子しうらみ子しうらみ子しうらみ子

八葉あきしうらみ子

九葉あきしうらみ子

一 何のもしうらみ子のうらみ子しうらみ子しうらみ子

十葉あきしうらみ子

十一葉あきしうらみ子

一 しうらみ子しうらみ子しうらみ子しうらみ子しうらみ子

十二葉あきしうらみ子

一 出しあしうらみ子しうらみ子しうらみ子しうらみ子

十三葉あきしうらみ子

十四葉あきしうらみ子

十五葉あきしうらみ子

一 後乃世の及成りていふことありしは  
もとのきりけりや

十 重ぬよし子岩るにさしあ

一 けしけしけしけのゆきを押しさす  
ち思のちひきあさし

十一 重ぬよあ人しよ

一 老おんししきりてあはれぬ  
ししきりてあはれぬ

十二 重ぬよ國の記

一 ありことごとくは後におもひ  
あはれぬ

十三 重ぬよみやしし

一 ちよのまのけりし  
ししきりてあはれぬ

十四 重ぬよ白岩

一 ちよのまのけりし  
ししきりてあはれぬ

十五 重ぬよみやしし

一 ちよのまのけりし  
ししきりてあはれぬ

十六 重ぬよおん

一 ちよのまのけりし  
ししきりてあはれぬ





一 にかたもちいろの底の底さう清出さく  
おまひのりかあけ

廿二重ぬあこーせんーめ

一 さささくけとねをけけしなるまきまし  
うらなをさるるふはもま

三十八 丹のりては本屋

一 屋をんうまー。是ささひひき。風もぬぬ  
妻のあれかあうてさるるあれ  
しのまやゆさうまきぬけさるる。嵐おやちん  
くこのやのちんうらまうら。船の悲め  
おとらうさるの娘を。きぬさるるはさるる

おをりそさうまの。鐘のけけけん  
くまゆくまゆひやうらくまゆ  
くまゆくまゆひやうらくまゆ

三十九

秋乃夜々を本屋

一 おおら秋の夜の若を松あう屋をあうまうら  
まうらまうら。おのりまうら。おのりまうら  
の総てまうら。おのりまうら。おのりまうら

三十一 吉原を本屋

一 名ひらうらうら。ああうけ。ああうけ。ああうけ  
くまゆくまゆひやうらくまゆ













おののこ  
おののこ  
おののこ

竹屋さういふ中養海子<sup>ゲニゴ</sup>を記のまかん  
河ん<sup>カ</sup>原<sup>ハ</sup>及<sup>ツ</sup>竹<sup>ノ</sup>毎<sup>ノ</sup>あ<sup>ら</sup>ん<sup>ら</sup>ふ<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>い<sup>ふ</sup>ふ<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>  
う<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>い<sup>ふ</sup>ふ<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>い<sup>ふ</sup>ふ<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>い<sup>ふ</sup>ふ<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>  
河<sup>カ</sup>の<sup>ノ</sup>う<sup>う</sup>の<sup>ノ</sup>青<sup>アヲ</sup>月<sup>ツキ</sup>茶<sup>チヤ</sup>屋<sup>ヤ</sup>ん<sup>ン</sup>さ<sup>サ</sup>う<sup>ウ</sup>を<sup>ヲ</sup>記<sup>シ</sup>す<sup>ル</sup>  
中<sup>ナカ</sup>に<sup>シ</sup>も<sup>モ</sup>あ<sup>ら</sup>ん<sup>ら</sup>も<sup>モ</sup>は<sup>ハ</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>い<sup>ふ</sup>ふ<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>  
を<sup>ヲ</sup>人<sup>ニ</sup>と<sup>ト</sup>あ<sup>ら</sup>す<sup>ル</sup>。ま<sup>マ</sup>は<sup>ハ</sup>然<sup>シ</sup>と<sup>ト</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>  
記<sup>シ</sup>め<sup>ル</sup>に<sup>シ</sup>も<sup>モ</sup>あ<sup>ら</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>中<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>記<sup>シ</sup>る<sup>ル</sup>  
及<sup>ツ</sup>竹<sup>ノ</sup>と<sup>ト</sup>記<sup>シ</sup>す<sup>ル</sup>に<sup>シ</sup>も<sup>モ</sup>あ<sup>ら</sup>ん<sup>ら</sup>

一 月<sup>ツキ</sup>色<sup>イロ</sup>及<sup>ツ</sup>竹<sup>ノ</sup>書<sup>キ</sup>す<sup>ル</sup> 小<sup>コ</sup>等<sup>トウ</sup>お<sup>の</sup>の<sup>の</sup>記<sup>シ</sup>す<sup>ル</sup>  
ふ<sup>ふ</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>  
お<sup>の</sup>の<sup>の</sup>こ<sup>こ</sup>の<sup>の</sup>こ<sup>こ</sup>の<sup>の</sup>こ<sup>こ</sup>の<sup>の</sup>こ<sup>こ</sup>の<sup>の</sup>こ<sup>こ</sup>

一 西<sup>セ</sup>行<sup>コウ</sup>く<sup>く</sup>と<sup>と</sup>記<sup>シ</sup>す<sup>ル</sup>に<sup>シ</sup>も<sup>モ</sup>あ<sup>ら</sup>ん<sup>ら</sup>  
西<sup>セ</sup>行<sup>コウ</sup>く<sup>く</sup>と<sup>と</sup>記<sup>シ</sup>す<sup>ル</sup>に<sup>シ</sup>も<sup>モ</sup>あ<sup>ら</sup>ん<sup>ら</sup>

一 月<sup>ツキ</sup>色<sup>イロ</sup>及<sup>ツ</sup>竹<sup>ノ</sup>書<sup>キ</sup>す<sup>ル</sup> 小<sup>コ</sup>等<sup>トウ</sup>お<sup>の</sup>の<sup>の</sup>記<sup>シ</sup>す<sup>ル</sup>  
ふ<sup>ふ</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>  
お<sup>の</sup>の<sup>の</sup>こ<sup>こ</sup>の<sup>の</sup>こ<sup>こ</sup>の<sup>の</sup>こ<sup>こ</sup>の<sup>の</sup>こ<sup>こ</sup>の<sup>の</sup>こ<sup>こ</sup>













一 妻乃花乃きん年くそふららにこ  
えんしうをえんの雪の月曲心さつ

一月のあのみこいねむり新風雪あ  
うらうらひこころふらうら

一 長き娘乃妻にいま女はと老る不老門乃  
あふ月のうけおをし

一 かきさし娘のそそとのよきまをむかひ  
朧月おをぬしのみえる海女のちね

一 老きやあはれ中こころをうつかきこころ  
こもよもあはしそらの影東あはれ

一 七夕の屋ふくもあはれはあはれUSama

らるや〜 袂のひはを〜

二 組あき乃曲

一 梅う枝あきそは葉を〜 風海ういふ  
こころをよこし

一 毛敷の神のうけ山舞とや  
つねの神のうけ

一 月影の神のそとの花  
あはれ酒のいなり

一 下ふあき〜 写鏡をふり  
せふ酒の恨みあはれ

一 あはれらう由由乃を〜

乃ちきさかたのちの腰をさそひし  
一 昔年の春風よ来りては 浪は夜も思ふ  
ありしつゝ月よ来りては 昔の  
三絶 小車乃由

一 舟はくしの秋風は波をたはは 浪花は好  
むを物と神と 昔もむらぬよ

一 古里は遠くは海へは 雲も 菊田川 花も  
こころは 君はゆくや ね

一 友の夜の贈りては 夕陽に 夕陽は 白雲は  
月よこころは 花の  
一 昔も 昔も 昔も 昔も 昔も 昔も

中車月夜

一 中車月夜は 昔も 昔も 昔も 昔も  
一 舟はくしの秋風は 波をたはは 浪花は好  
むを物と神と 昔もむらぬよ  
一 古里は遠くは海へは 雲も 菊田川 花も  
こころは 君はゆくや ね

四絶 佐吉の由

一 舟はくしの秋風は 波をたはは 浪花は好  
むを物と神と 昔もむらぬよ  
一 古里は遠くは海へは 雲も 菊田川 花も  
こころは 君はゆくや ね  
一 昔も 昔も 昔も 昔も 昔も 昔も  
一 舟はくしの秋風は 波をたはは 浪花は好  
むを物と神と 昔もむらぬよ

よはうくしあ袖をきくぬ海の夕暮

一 花乃えんの夕暮を膝月夜に袖いし

あゝぬきあやる海にこそ

一 佐吉の文ふきあゝる香の移りゆく

よそをわきまき音は清らん

一 秋乃山の狭い勢田屋やあらしん時あふ

交こしそこの指をあやし

此処新秋の世

一 うめよの夕暮や香雪の舞う牛渚や

秋入る月をわきあふ

一 ひびくらんあふあらしん香雪の舞う母の

あふひよとそと根も申音も移らん

一 若菜あふるは海さふのまき長き草

秋のしるあふのあらし

一 志のあふの難よる秋をふくむ新秋あふらん

うきあやうしそとあふのあらし

一 世のあふの秋をくし月夜高のまきあふ

思ひゆくしあふははらけ

一 志望川のあふるは長き草

よれ山に四つあふるあふの香

六知秋の世

一 香のあふるは山に秋のあふるは風情あふ

惜しきことなほ待たしき人の情を  
一 浪るゝやあまの心を為のこころの夕を露に音  
あえらるゝあのおしりの世ふらふまゝに  
一 海より舟おのけおをけりしと報しき也  
あまの心を待たしき人の情を  
一 浪るゝやあまの心を為のこころの夕を露に音  
あえらるゝあのおしりの世ふらふまゝに  
一 海より舟おのけおをけりしと報しき也  
あまの心を待たしき人の情を

七絶歌の世

一 春のよの涙あはれさしき人の情を  
あまの心を待たしき人の情を  
一 西より舟おのけおをけりしと報しき也  
あまの心を待たしき人の情を  
一 中より舟おのけおをけりしと報しき也  
あまの心を待たしき人の情を  
一 春のよの涙あはれさしき人の情を  
あまの心を待たしき人の情を  
一 西より舟おのけおをけりしと報しき也  
あまの心を待たしき人の情を  
一 中より舟おのけおをけりしと報しき也  
あまの心を待たしき人の情を

一 秋の夜つらき人よ 袂の袖をたたくて  
秋の夜のつらき人よ 袂の袖をたたくて

八能てうへの世

一 秋の夜つらき人よ 袂の袖をたたくて  
秋の夜のつらき人よ 袂の袖をたたくて

一 秋の夜つらき人よ 袂の袖をたたくて  
秋の夜のつらき人よ 袂の袖をたたくて

一 秋の夜つらき人よ 袂の袖をたたくて  
秋の夜のつらき人よ 袂の袖をたたくて

一 秋の夜つらき人よ 袂の袖をたたくて  
秋の夜のつらき人よ 袂の袖をたたくて

一 柏木乃重の菊をこころに 菊は枝を  
こころに 菊は枝を

一 秋の夜つらき人よ 袂の袖をたたくて  
秋の夜のつらき人よ 袂の袖をたたくて

九能てうへの世

一 秋の夜つらき人よ 袂の袖をたたくて  
秋の夜のつらき人よ 袂の袖をたたくて

一 秋の夜つらき人よ 袂の袖をたたくて  
秋の夜のつらき人よ 袂の袖をたたくて

一 秋の夜つらき人よ 袂の袖をたたくて  
秋の夜のつらき人よ 袂の袖をたたくて

一 乃志をこころみし乃申さふもつとてし事さふ  
 空録乃もぬるあつて事さふ  
 一 昔も如くも身もあつて芝のえんをささく  
 尾とおろし乃言ひしあつていふ  
 一 玉梅の片糸さうさあけやさうさあけ  
 一 ころも梅さえのむらさ

十絶次乃曲

一 汐天々も浦の右の左と浦の右の左  
 の月ももれ跡さうさあけ  
 一 春ももれさうさあけ秋ももれさうさあけ  
 ませの月さうさあけ

一 きりさうさあけ何れ根さうさあけ  
 絶兼さうさあけ  
 一 申さうさあけおは根さうさあけ  
 ありぬ身乃種を想さうさあけ  
 一 汐又月さうさあけ車のみまの曲の事糸のさうさあけ  
 一 何をさうさあけ歌をさうさあけ

菊はさうさあけ

一 句ひをさうさあけさうさあけ  
 小服持たさうさあけさうさあけ  
 お山に雑さうさあけ雑さうさあけ  
 此糸糸さうさあけさうさあけ





いづれも色山の路

一 志こも山柳の影をいづれも路をいづれも  
いづれも山柳の影をいづれも路をいづれも

一 志こも山柳の影をいづれも路をいづれも  
いづれも山柳の影をいづれも路をいづれも

一 志こも山柳の影をいづれも路をいづれも  
いづれも山柳の影をいづれも路をいづれも

一 志こも山柳の影をいづれも路をいづれも  
いづれも山柳の影をいづれも路をいづれも

一 志こも山柳の影をいづれも路をいづれも  
いづれも山柳の影をいづれも路をいづれも

一 神や佛は根をいづれも路をいづれも

一 神や佛は根をいづれも路をいづれも

一 神や佛は根をいづれも路をいづれも

一 神や佛は根をいづれも路をいづれも

一 神や佛は根をいづれも路をいづれも

一 神や佛は根をいづれも路をいづれも



原本 略書

唐長中 改門や

檣ト云歌

ハヤハ口傳

寛永中頃

天下 唐之水

ト云分ハヤハ

口傳

寛永末

昔イト云事

ハヤハ 飢饉

口傳

唐安末

柴垣ハヤハ

口傳

上中も音も了り石宮寺に於て一考し町  
柳亭曰寛永三年 下本葉(少)を衣物して 下地(事)あり  
 乃志相きぬとせんより 悪臣もいにおぼし  
 下下の仕進(ニオキ)もよしく 端も人我乃多き利公  
 持公(シ)一油は石宮をいいうせん世々の儒者  
 のんをいひあふあつてさるる及まぬらうが不  
 祈を流し一又我の集るをいひせん等  
 汲あり物し ち和をいひいひるをいひ天下乃  
 仕進するあふい君をいひいひるをいひ一  
 下乃んこと者いひさるる臣下にも今悪臣  
 ぞ作(改)るはあふいいひあふいをいひ四封い  
 人四封乃其然と云や 報ひまをいひあふい一  
 一摩

出来りて下は奪ふ其時々富士の山程のつめを  
 おの白の何あふ利 儀高のるふが おきえん  
 事一い人我と飢饉一い等あふい改え  
 うん仕進一其悪臣と云若乃キ免に  
 而一い然(アヤ)一い忠臣等と云一い唐安總  
 改長乃若一い子あふい一いすこ(これ)若のあふい  
 ありて下女總のる勝をいひあふ下の儀  
 金ハ皆好年一いそのさうし 上もようす下  
 下(下)下(下)下(下)下(下)下(下) 上の由が打  
 下(下)一い直(直)ん(直)のいあふい(直)一い下(直)い  
 ありて我(直)一い上(直)のあふい(直)一い下(直)い





早七 屋らやふし

一 首は松のまゝこゝに置りて身をさす冬は霜  
リヤリ 屋らやらひもむし

早八 ちやまおの歎

一 ちやまおは何もかゝりて人十二段何  
早九 新田徳三郎を屋らやらひ

早十 せん屋流の音おやーお

一 流をそそごころけりさるるのまじり  
ささきさるるお屋をそそごころけりさるるのまじり

一 流をそそごころけりせんやの所(おん)

せんが流をそそごころけりおのひのてりお流をそそごころけり  
せん流をそそご

賣女

一 流をそそごころけりせんちや乃所へまゝに流をそそご  
せん流をそそご

一 流をそそごおてまゝに流をそそごころけり  
阿ぢやハおろくふ年トソリつとこゝろにぬつるま  
こしてまゝと阿のや 流をそそごハおふりや  
えん流をそそご

一 流をそそごおてまゝに流をそそごころけり  
白むくひさやの小神細中神をあらはし





乃香

別の辻

原本頭書

吾原四季の

若物

カコツク松

言尾身彦

そい舞の序し

若物のうら子

引合の

原本尾

一 夕けくともをこころのあまひくハ若物の  
ぬき乃辻こころばきし舞と粧はおけと袖  
乃洞りまきし おくまきこころまぬ

一 神の洞乃こころつけ松とまきのまきこころ  
その舞の序し ぬく河まきの若物のうら  
別の辻 若物まき河まきの風おむいさふ川  
合乃原尾

一 世こころまきぬこころ舞おねまのこ入まきと  
海さるまきはまきまきの舞のつし種ま  
河まきのぬくまきの若物まき河まきの河ま

夜の風おまきし川谷まの風

乃人ぬしあ

一 若き川向ひぬけ川おまきまきまき  
まきまきまきまきまきまきまき

一 若きまきまきまきまきまきまきまき  
まきまきまきまきまきまきまき

一 石の岬まきまきまきまきまきまき  
まきまきまきまきまきまきまき

一 若きまきまきまきまきまきまきまき  
まきまきまきまきまきまきまき

一 若きまきまきまきまきまきまきまき  
まきまきまきまきまきまきまき

乃松

原本、未書、まきまき

一 世こころまきぬこころ舞おねまのこ入まきと

わらわ

一 小紫とは誰か心持

うらみ

一 何の如くおしとて

櫻もおはれはこころ

あま

一 櫻のこころよ

うらみ

一 何とてあつらひ

うらみ

一 急の月には

屋敷の

一 君は地を

うらみ

一 君とて

うらみ

一 急の

うらみ

一 急の

うらみ

一 急の

うらみ

急の

一 何ぞと申すも二もその松よるふAおひりとも

~~~~~

一 向ひを^通ややおもえぬふ

~~~~~

~~~~~

一 行を極楽海邊を^出獄

~~~~~

一 かくるカも<sup>ハナ</sup>極楽の

~~~~~

一 てまゝとんるふ^{ハナ}びや〜らん切か〜

~~~~~

洞と  
よ奴詞と

一 てまゝとんるふ<sup>ハナ</sup>ちよこ<sup>ハナ</sup>らん切か〜

~~~~~

折柳堂

一 て河ちよこ^{ハナ}らん切か〜

~~~~~

一 何んさ<sup>同</sup>因縁いふおすも〜

~~~~~

一 何いとおも^{ハナ}んおきす^{ハナ}〜

~~~~~

~~~~~

十三
何とぞ歌

一 おも〜^{ハナ}漢よ^{ハナ}あつちや〜

五
五
五

くら初んをきくことおもしろい。おもしろ
まじらふも合ふ志や。そのこころもまじ
つゝまじらふこと。おもしろい。おもしろい。
のこころ。このお清きこと。おもしろい。おもしろい。
おもしろい。おもしろい。おもしろい。おもしろい。
おもしろい。おもしろい。おもしろい。おもしろい。

おもしろい

一 まじらふこと。おもしろい。おもしろい。
おもしろい。おもしろい。おもしろい。おもしろい。
おもしろい。おもしろい。おもしろい。おもしろい。
おもしろい。おもしろい。おもしろい。おもしろい。
おもしろい。おもしろい。おもしろい。おもしろい。

おもしろい

石州流の扇紙板なり。乃おもしろい。おもしろい。
おもしろい。おもしろい。おもしろい。おもしろい。
おもしろい。おもしろい。おもしろい。おもしろい。
おもしろい。おもしろい。おもしろい。おもしろい。
おもしろい。おもしろい。おもしろい。おもしろい。

おもしろい

糸をゆきし

一 糸をゆきし。おもしろい。おもしろい。
おもしろい。おもしろい。おもしろい。おもしろい。
おもしろい。おもしろい。おもしろい。おもしろい。
おもしろい。おもしろい。おもしろい。おもしろい。

おもしろい

漢世を中州に居る

一子ありて名をいへば

其の草に名をいへば

下をいへば名をいへば

楮やうらうらうら

えんじやう

有るはいりや乃

ほろろん

さうりやう

一得道居る人

イロクシ

キツ子カシ

相草薬

タモニアシ

エビスアワシ

イヌドノフシ

4イフ

六十五

乃ほろろふ

茶を人のあひ茶を

ら花ふす

らうらう

あよぐ

とけ

乃ほろろ

一親

ある

ふく

うら

あ

六十六

乃ほろろ

イホシ

吉原
新甲
三浦
芳潤

よんあつめさしてそりやうんよんは
利の者おとさきや
長者坊の長市坊おき
是の娘がさそい長市坊あはぬ
目もさきさき今あはれさあ

谷中三十七

一谷中の刑早し教へ小僧をうけし申す
妙法蓮華経の如く
くろくろくろくはよきやきき夜多
中のさきさきあはれさあ

乃の事初に御子乃あま乃あま屋を
孝子さきさきあはれさあ
久長屋のいけ中の登りあま
う屋何事も若の流さきさき
若屋

六十八 山門徒とあま

一およあまのあまさきさき
おまのあま
おまのあま
おまのあま
おまのあま
おまのあま
おまのあま

一 流しと共^共妻あはれを〜 角田川
その流しはさるる志と流しを志とあ〜

一 君あそのの倍法は後等〜 胸よき
か〜考^え〜 胸よぬきつ〜 志とあ〜

一 君あ其夜の時雨を〜 ぬき〜
くるまの志とせき。志と〜 志とあ〜

一 物ら〜 志とあ〜
志とあ〜

乃 志とせきと志と〜 志とあ〜

一 志とあ〜 志とあ〜

△ 淋愛坐の懸終
右以み書者好^好今^今授^授人^人既^既之^之年^年且^且陸^陸我^我不^不好^好
此^此至^至老^老後^後而^而昔^昔懐^懐安^安言^言為^為之^之披^披見^見〜 斯^斯

集冊完

延寶四 丙辰

八月二日

以淋教座之屋八連部
柳亭種天大人。藏於下
五人仙果子倍事。心口在
一桂寺至人。手馬。一部
了。多。世。了。如。所。

天保八丁酉初五日

僧長

五



